

# 令和3年度予算編成方針

## ■ 国の動向について

本年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020」では、ポストコロナ時代の新しい未来に向けた新たな経済社会の姿を実現するためにも、感染症拡大への対応と経済活動の段階的引上げや激甚化・頻発化する災害への対応を通じて国民の生命・生活・雇用・事業を守り抜くとともに、「新たな日常」の実現を目指す必要があるとしている。

## ■ 本市の財政状況について

急速な少子高齢社会の進展に伴う社会保障関連経費や、老朽施設への対応経費の増加を背景に、本市は令和元年度決算で財政調整基金を8年間連続で取り崩すこととなり、令和2年度当初予算編成時点での残高は、市制施行以降最低の7千8百万円となった。また、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は98.2%となり、前年度よりも0.5ポイント改善したものの、前年度同様、ふるさとまちづくり応援基金を活用したことが大きな理由の一つであり、依然として財政構造は極めて硬直化している。

今後の見通しとして、新型コロナウイルス感染症の影響により、歳入の根幹である市税収入の減収が見込まれ、地方消費税交付金は、緊急事態宣言下の休業要請や外出自粛要請の影響による消費の落ち込みから、減収となる可能性が高い。

歳出面では、昭和40年、50年代に本市に転入した世代を中心とした高齢化の加速に伴う社会保障関連経費の増加が今後も見込まれることに加え、新型コロナウイルス感染症に対応する経費が、令和3年度以降も必要となる可能性がある。

## ■ 令和3年度予算編成について

財政調整基金残高が8年連続減少している危機的な財政状況を踏まえ、令和3年度予算は次に掲げる3点を柱に編成する。

- ① 課別上限経費は令和元年度決算額を上限とする予算編成を行う。
- ② 阪南市行財政構造改革プランの効果検証を行った後総括を行い、令和3年9月までに（仮称）行財政構造改革プラン2021（改訂版）を策定する。
- ③ （仮称）行財政構造改革プラン2021（改訂版）の重点項目を、令和3年3月の行政経営方針に盛り込む。

令和3年度当初予算は令和元年度決算額を上限とした予算編成とすることとし、危機的な状況を打開するため、「阪南市行財政構造改革プラン」の効果検証及び、新たな具体的改革案の洗い出しに着手するとともに、行革プラン2021（改訂版）の策定に向けた取組案の抽出、検討を行う。

人口減少時代、超高齢社会はこれから本格化するところで、財政基盤がぜい弱な本市では、改革を加速する必要がある。職員全員が本市の財政状況を強く認識し、事業の見直しや創意工夫により、一丸となって、この難局を乗り越えることとする。